

1P67

新版K式発達検査2020の改定作業の経過と公開

郷間 英世^{1,2}、清水 里美^{3,2}、大谷 多加志^{4,2}、
全 有耳^{5,2}、田中 駿^{6,2}

- ¹ 姫路大学
- ² 新版K式発達検査研究会
- ³ 平安女学院大学短期大学部
- ⁴ 奈良教育大学
- ⁵ 大阪大谷大学
- ⁶ 京都国際社会福祉センター

【目的】

新版K式発達検査2001（新K式2001）は、医療・保健や教育・福祉の領域で、幼児期を中心とした発達の評価や支援に用いられている。今回、子どもたちを取り巻く環境の変化や発達障害児への対応の必要性から改訂を行い、新版K式発達検査2020（新K式2020）を2020年12月に公開した。ここでは、改定作業の経過や変更点等について報告する。

【改定作業の経過】

新K式2001発刊後の課題などを踏まえ、検査項目の新設や削除、評価基準や方法の見直しなどを2013年に始めた。一例として、社会的経験や対人スキルの評価のため新設された「じゃんけん」の項目について説明する。これは、ゲー、チョキ、パーの手の形ができるかどうか、すなわち「手の形の課題：じゃんけんⅠ」、それぞれに対し勝つものが出せるかどうか、すなわち「勝ち判断課題：じゃんけんⅡ」、および、負けるものが出せるかどうか、すなわち「負け判断課題：じゃんけんⅢ」である。2014年から1～7歳の569人に調査が実施され、Ⅰ～Ⅲの課題はいずれも加齢とともに通過率が上昇し、通過率に有意差を認め、新設項目に加えられた。

【新K式2020の標準化】

新K式2001では標準化の調査協力者は近畿圏内であったが、今回は北海道から九州・沖縄まで検査者を募り、全国から協力者を募集した。その結果、全体で3307人の検査を行い3243人の結果を分析した。性別は女1701人、男1542人、年齢は1歳まで603人、1歳から6歳まで1053人、6歳から14歳まで666人、14歳以上921人であった。資料はまず、項目ごとの年齢別通過率から50%通過年齢（半数の子どもが課題を通過できるようになる年齢）が算出され、合計339の検査項目が50%通過年齢に基づき5葉の検査用紙に配置された。次いで、新K式2001との相関や検査としての信頼性や妥当性の検討がなされた。また、今回は生活および発達年齢が14歳以上は偏差DQにより指数が計算できるようにWAIS-Ⅲとの相関が検討され、相関係数は0.75であり概ね妥当と考えられた。

【考察】

新K式2020の公開に至る経過について報告した。新K式検査は、個々の発達評価や知的障害の診断のみならず、新生児ネットワークデータベースの共同研究や環境庁のエコチル調査など、利用の幅も広がってきている。本検査の役割の広がりに期待したい。

1P68

両親の周産期気分障害と子どもの健康の関連：レセプトデータを用いた検討

帯包 エリカ¹、山名 隼人²、大野 幸子³、
康永 秀生⁴、川上 憲人¹

- ¹ 東京大学医学系研究科 精神保健学分野
- ² 東京大学医学系研究科 ヘルスサービスリサーチ講座
- ³ 東京大学医学系研究科 イートロス医学講座
- ⁴ 東京大学医学系研究科 公共健康医学専攻 臨床疫学・経済学

【背景】

周産期気分障害は両親どちらにも起こる疾患で、子の発達・健康に影響する可能性があるが、父親の周産期気分障害と子の健康の関連は十分に検討されていない。母の周産期気分障害と子の健康の関連の検討では、父親の気分障害や抗うつ剤の影響が調整されることも少ない。本研究では両親の周産期気分障害を相互に調整し、子の健康との関連を明らかにする。

【方法】

本研究はレセプトデータベースであるJMDC Claims Databaseを用いて両親の周産期気分障害と生後36か月の子の健康との関連を検討した後ろ向きコホート研究である。対象は2011-2017年に出生し、健康保険組合に扶養家族として登録された子と両親で、周産期に同一家計世帯に両親がいる者とした。周産期気分障害は、妊娠期-生後12か月の気分障害のICD-10コードと抗うつ剤処方/精神科診察を組み合わせた。子の健康アウトカム（早産・低出生体重児、体重増加不良、運動発達遅滞、齲歯、言語発達遅滞、自閉症スペクトラム障害（ASD）、情緒・行動障害）は、生後36か月までのICD-10コードを用いた。解析は両親の周産期気分障害が新生児アウトカムに寄与するオッズ比を多変量ロジスティック解析で算出し、親の周産期気分障害が小児アウトカムに寄与するハザード比をCox比例ハザードモデルで算出した。

【結果】

65,804組の対象家族中、3.0%の父親、2.1%の母親に周産期気分障害を認めた。父の周産期気分障害は、いずれの子の健康関連アウトカムとも有意に関連しなかった。母の周産期気分障害は、共変量調整後も子の運動発達遅滞、言語発達遅滞、ASD、情緒・行動障害と有意な関連（調整後 HR 2.18, 95% [CI 1.39-3.41]; 調整後HR 3.01, 95% CI[1.90-4.77]; 調整後HR 4.27, 95% CI [2.66-6.86]; 調整後HR 4.24, 95% CI [1.38-13.01]）を示した。

【考察】

父親の周産期気分障害は子の発達・健康アウトカムと関連しなかった。母親の周産期気分障害は父親の周産期気分障害を調整しても子の発達・健康アウトカムと関連していた。本研究の対象は、父親が主たる労働を担っており、家族背景が結果に影響した可能性がある。

【結論】

母親の周産期気分障害は父親のそれとは独立して、生後36か月までの小児健康アウトカムとの関連において重要な予測因子となる。